

## NO. 87 日本の大学のインテリア教育について

阿部研究室 井ノ口綾花

### 背景・目的

現在日本は、新築を中心としたフロー型社会からリノベーションやリフォームといったストック活用型社会に移行してきている。それにより建物の内装やインテリアを変えて空間を演出することの重要性が増しており、インテリアに関する知識の重要性が高まってきたといえる。

インテリアが注目されていることは、インテリアについての様々な本が発売されたり、海外の大型インテリアショップが日本で展開されるようになり、店舗数を増やすなど勢いを増している事からもうかがうことができる。

そこで本研究では、このように重要性が増してきているインテリアについて教育している大学が全国でいくつあり、その教育内容はどのようなものであるかなど、日本の大学におけるインテリア教育の現状を明らかにすることを目的とする。

### 調査対象

#### ① 調査対象大学の選出

「2010 年度用大学受験案内」（学研・2009 年）を用い、大学の学部・学科の紹介文の中に「インテリア」「デザイン」「空間」という言葉が入っている学科・専攻等を選出した。

#### ② インテリア教育の有無の確認

選出した学科のシラバスを収集し、実際にインテリアに関する教育が行われているか確認作業を行った。シラバスが収集出来なかったものは各大学のサイトからWEBシラバスを探しだし、インテリア教育の有無の確認作業を行った。

#### ③ ①の作業に見落としがないかの確認

②の確認作業を行いながら、①で選出した学部・学科以外のところでインテリア教育が

実施されているのを発見した場合それを新たに調査対象に加えた。

この方法により全国 209 大学 278 学科・コースを調査対象として選出した。

### 調査方法

調査対象大学のシラバスを使って以下の作業を行った。

#### ① 授業名で座学か演習(実習)に分類

授業名で座学か演習か分かるものはそれを使い分類した。

#### ② 授業内容で講義か演習(実習)に分類

①方法で分別出来なかったものについては、どのような内容の授業なのかを確認し、講義もしくは演習（実習）の分類を行った。

#### ③ 授業内容で授業を分類

講義の場合は計画、歴史、材料など、どのような種類に当てはまるかをシラバスの講義内容の説明を参考に判断し、分類した。

演習(実習)科目の場合も同様に、設計、制作など、どの種類に当てはまるのかシラバスの内容を参考に判断し、分析を行った。

### 調査結果

#### インテリア教育実施学科

学科別インテリア教育の実施状況からは、インテリア教育は工学系・芸術系・家政系その他、建築系とは関わりがなさそうな経済系・総合科学系などの学科も少数ながら見られ、幅広い系統の学科で行われていることが確認出来た。

また選出した女子大学の学科の 76%、約 8 割の学科でインテリア教育が行われていることが分かった。これはインテリア教育を積極的に行っている家政・生活科学系の学科が、女子大学に多くあるためであった。

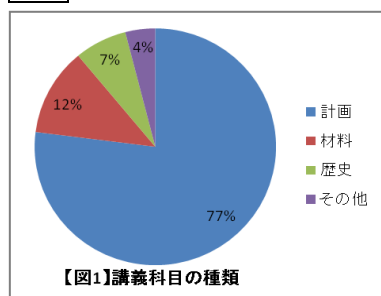
地域分布という点では、偏在は見られず、全国のどこの地域にもインテリアを学べる学

科がある事が分かった。

インテリア教育実施学科の入学時の偏差値では、「2010年度用大学受験案内」（学研・2009年）の2010年度入試難易予想ランキング一覧のランク偏差値を用いた。その結果、ボーダーフリー（偏差値なし）から60以上と幅広い学力の学科でインテリア教育が行われていることが分かった。

インテリア教育実施学科の設置者別にみると、私立大学と公立大学の学科は6割以上の学科でインテリア教育が行われていることが確認出来たが、国立大学の学科では全体の16%と2割以下しか確認出来ず圧倒的に少なかった。

#### 講義



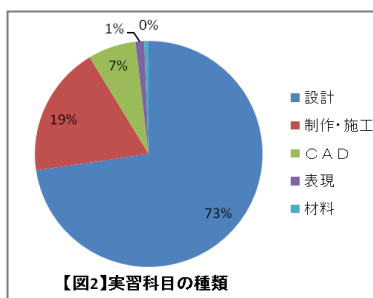
講義系科目の7割以上を計画系科目が占めていることや、歴史系の科目や材料系の科目はそれに比べて2割以下しかないと分かった[図1]。

この他経営系の科目など様々な科目が見られたが、割合は相対的にとても低いことが確認できた。

歴史系の科目は今回1割程度と低い結果ではあったが、昔からどのように現在のデザインが出来あがってきたのかという経緯を知ることのできるもので、受講生のデザインの幅を広げることの出来る重要な科目である。また歴史は、大学までに学んできた歴史の授業と繋がるものがあり、インテリアを専門的に学んでない学生も学びやすい科目である。そのためインテリアに興味を持つ学生が増えている中で、今後建築系に限らず、文系の学科など広い学科で取り入れられていく可能性が

ある授業であると感じた。

#### 演習(実習)



演習系の科目の7割以上を設計科目が占めているのに対し、制作・施工系の科目は2割以下と少ないことが分かった。

また今回CAD系の授業自体は調査したほとんどの学科で確認することができたが、インテリア専門のCADの授業はあまり確認出来ず、1割以下という結果になった。[図2]

シラバスを使った調査によって制作系の科目では照明や、椅子の制作の授業が多いことが分かった。これは椅子や照明が他の家具に比べ形の自由度が高く、いろいろなデザインに対応でき、また部屋の雰囲気作りの要素として重要視されることも多いため取り上げられることが多いと考えられる。

#### まとめ

今回の調査でインテリア教育は工学系・芸術系・家政系など建築関係の学科に限らず幅広い学科で教育されていること、女子大学はインテリア教育を行っている割合の高い家政・生活科学系の学科が多くあること、北海道から九州(沖縄も含む)まで幅広い地域でインテリア教育が行われていること、インテリア教育は幅広い学力の学科で行われていること、調査対象の中で私立・公立の学科はインテリア教育が行われている割合が国立大学に比べ高かったことなどが分かった。

また授業では、講義系の科目では計画系科目が、演習系の科目では設計系科目が積極的に行われていることが分かった。

本研究が今後のインテリア教育のさらなる充実の役に立つことを心から願う。